



海上保安庁  
令和6年2月22日

## 能登半島東方沖の海底で大規模な斜面崩壊の痕跡を確認

海上保安庁では、2月2日から8日にかけて能登半島東方沖の海底地形調査を実施しました。今回取得した海底地形と過去の海底地形を比較した結果、能登半島東方沖の海底谷の斜面が大規模に崩壊していることが分かりました。

海上保安庁では、2月2日から8日にかけて能登半島東方沖における地形変化の有無を確認するため、測量船「拓洋」による海底地形調査を実施しました（図1）。

今回取得した水深データと令和5年（2023年）5月に取得した水深データを比較した結果、能登半島の東方約30kmにある海底谷の斜面が複数の箇所では崩壊していることが明らかになりました（図1）。その内、最も大きく崩壊した箇所では長さ約1.6km、幅約1.1km崩れ、最大で約50m深くなっていました（図2・3）。

今回確認された海底谷斜面の崩壊は、前回調査（2023年5月6日～8日）以降に発生しており、令和6年能登半島地震で生じたものと考えられます。

本調査結果は今後、地震調査委員会に報告する予定です。

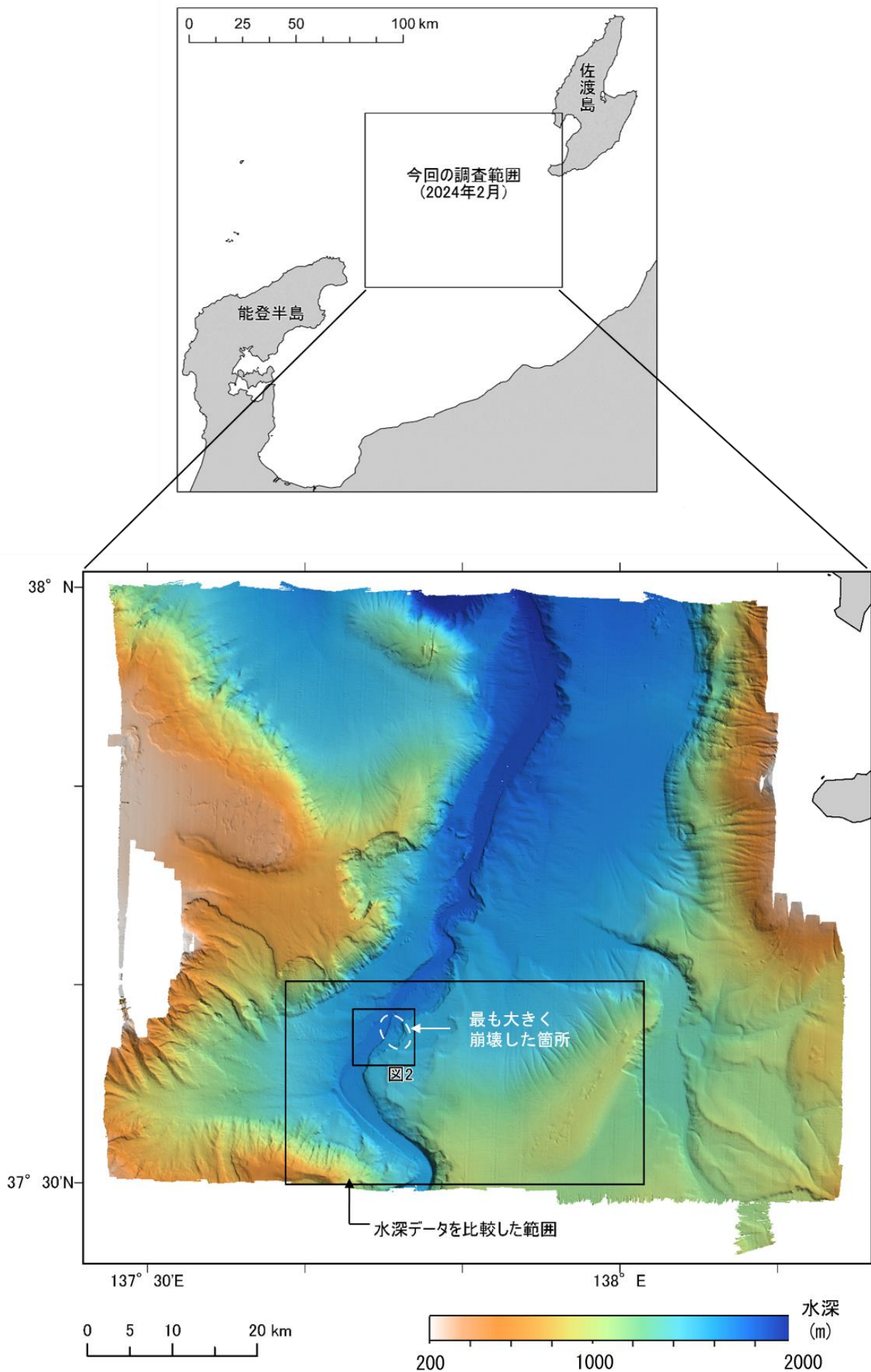
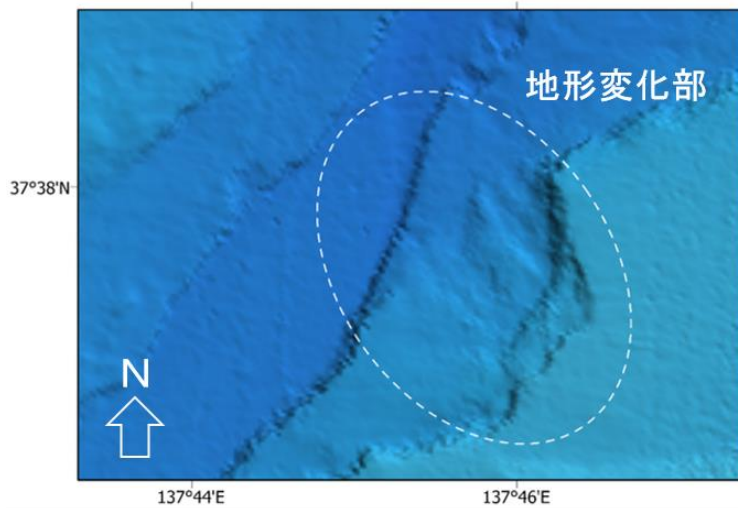


図1 能登半島東方沖の調査範囲

# 今回調査 (2024年2月2日～8日)



# 2023年5月調査

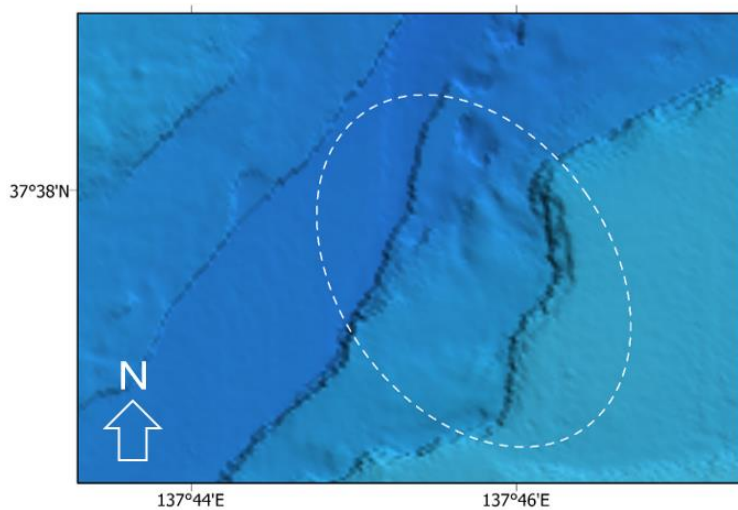


図2 最も大きく崩壊した箇所  
(白線内が変化部)

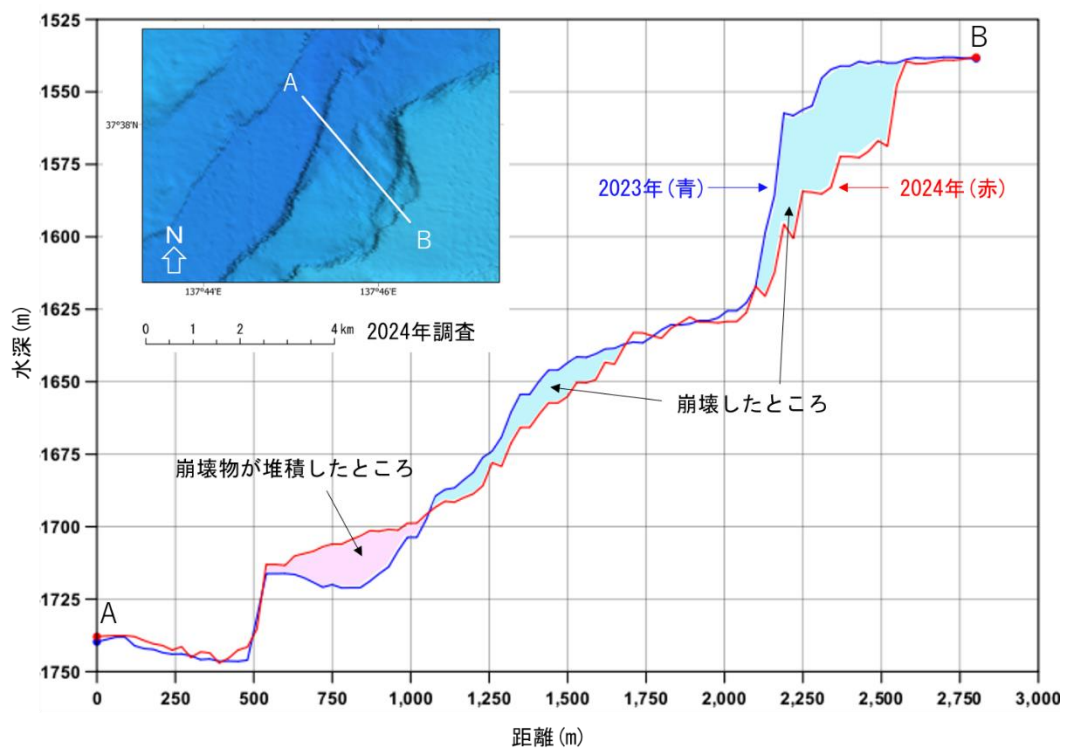


図3 2023年5月と今回(2024年2月)の海底地形の比較【断面図】

## 参考1 測量船「拓洋」による海底地形調査について

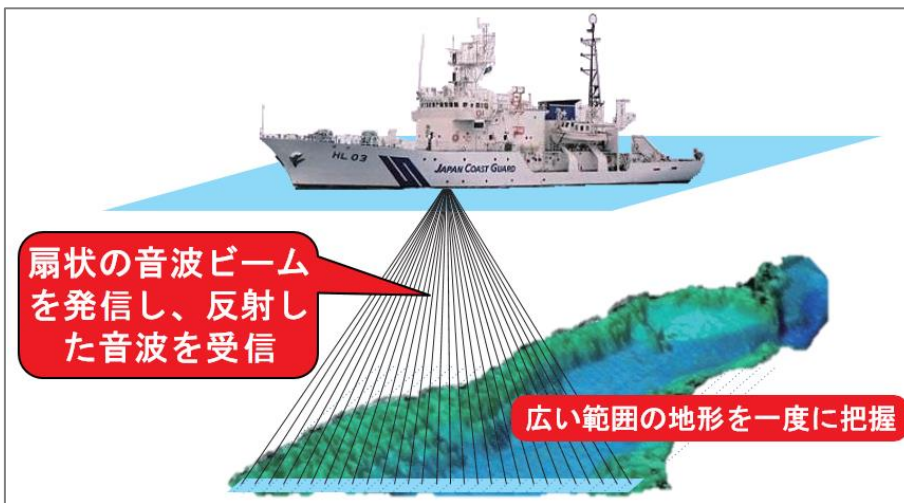
海底地形調査は、測量船「拓洋」に搭載しているマルチビーム測深機を使用して実施しました。マルチビーム測深機は、船底の送受波器から海底に向けて音波を扇形に発射し、反射した音波を受信することで、面的に海底地形を調べることができます。



測量船「拓洋」

### 【船体要目】

就役年月	昭和 58 年 8 月
総トン数	2,400 トン
全長	96.0 メートル
幅	14.2 メートル



マルチビーム測深機について

## 参考2 令和6年能登半島地震関連広報

- ・ 令和6年1月24日 「富山湾の海底で斜面崩壊の痕跡を確認」
- ・ 令和6年2月8日 「能登半島沖の海底で約3メートルの隆起を確認」